

平成15年度農作物有害動植物発生予察情報 発生予報第5号(8月)

平成15年7月30日
山形県病虫害防除所

[概要]

普通作物：斑点米カメムシ類の発生量はやや多い予想です(7月2日付け注意報第1号を发表)。穂揃期および穂揃期7～10日後の防除は必ず実施してください。
穂いもちの発生量は平年並の予想です。穂孕後期及び穂揃期の防除を徹底してください。

園芸作物：りんごの斑点落葉病の発生量は多い予想です。8月上・中旬は重点防除時期にあたるので、防除を徹底してください。西洋なしの輪紋病の感染量はやや多い予想です。8月にも感染するので降雨が続く場合には、薬剤の散布間隔を短くするなどの適切な防除に努めてください。

夏秋きゅうりのべと病、野菜花き共通害虫のヨトウガの発生量はやや多い予想です。ほ場をよく見回り、初期防除を徹底してください。

次の発表は9月3日の予定です。

予報内容一覧

作物名	病虫害名	発生時期	発生量
いね	穂いもち	ややおそい	平年並
	紋枯病	-	平年並
だ い ず	斑点米カメムシ類	-	やや多い
	ジャガイモヒゲナガアブラムシ	-	平年並
りんご	斑点落葉病	-	多い
	灰星病	-	平年並
もも	モモハモグリガ	-	少ない
	輪紋病	-	やや多い*
西洋なし	カメムシ類(り・も・な・か)	-	やや少ない
	ハダニ類(り・も・な・ぶ・お)	-	平年並
果樹共通害虫	ハマキムシ類(り・な)	-	少ない
	モモシンクイガ(り・も・西)	-	平年並
夏秋きゅうり	ナシヒメシンクイ(も・西)	-	平年並
	べと病	-	やや多い
野菜・花き共通害虫	うどんこ病	-	平年並
	アブラムシ類(夏・き・は)	-	平年並
	ハダニ類(夏・き)	-	やや少ない
	ヨトウガ(ね・は・き)	-	やや多い

()内 り：りんご、も：もも、な：和なし・洋なし、西：西洋なし、ぶ：ぶどう、
お：おうとう、か：かき、夏：夏秋きゅうり、ね：秋冬ねぎ、は：秋冬はくさい、き：きく
*：感染量

下記の病虫害は、防除上注意すべき事項等について記載しています。

作物名	病虫害名
いね	セジロウンカ、コブノメイガ、フタオビコヤガ
だ い ず	紫斑病、マメシンクイガ
ぶ ど う	晩腐病、べと病、褐斑病、さび病
果樹共通害虫	ウメシロカイガラムシ(も・お)
夏秋きゅうり	黒星病、斑点細菌病

()内 も：もも、お：おうとう

巻末(11頁)に山形県農作物病虫害防除基準の訂正点について掲載しております。

山形県農薬危害防止運動実施中

実施期間 平成15年6月20日～8月20日

山形県では農林水産省・厚生労働省・市町村・農業者団体・農薬販売協会・県医師会等の関係機関と連携して運動を実施します。農薬が最も使用される時期を重点に、全県的な運動をおこないます。

1. 農薬の計画的な購入と適切な保管管理

農薬は農林水産省登録番号のある登録農薬を必要量だけ計画的に購入する。
農薬は鍵のかかる専用保管庫に保管し、盗難されることがないように管理する。
購入時は有効年月を確認し期限内に使用する。

2. 農薬の危被害事故の防止

散布者の危被害事故防止のため、農薬散布を行う場合、日中の高温時の散布を避けることや体調が悪いときは無理せず農薬散布をやめることが大切です。
農薬散布時には、周辺住民や他作物の耕作者へ十分配慮するとともに、散布方法や散布薬剤によっては事前に周辺にお知らせすることも必要です。また、河川等の流入がないように周辺環境にも十分注意した使用を心がけることが重要です。

3. ラベルに記載された使用方法を守り、安全な農産物生産を！

適用作物、使用量（粒剤、粉剤の場合は使用量、液剤、水和剤の場合は希釈濃度、総使用回数、使用時期（収穫前使用日数）は、食用作物に使用する場合は遵守すべき使用基準です。違反した使用は農薬取締法違反になるばかりでなく、食品衛生法違反の農産物となる危険があります。

4. わからないことは農薬のプロに相談を

県知事が認定した農薬管理指導士、農薬適正使用推進員に相談しましょう。
各農業協同組合、農薬販売協会加盟店は農薬販売のプロです。

5. 万が一の事故の場合には

農薬の誤使用等で健康被害が発生した場合には、最寄りの医療機関や保健所に速やかに連絡してください。
農薬の不法投棄は廃棄物処理法違反になります。適切な処分方法がありますので不要な農薬を処分する場合には、農協や農薬販売店などにご相談ください。

農薬の相談は： 農業技術課(023-630-3072) 病虫害防除所(023-644-4241)
最寄りの総合支庁農業普及課
ホームページ（愛称：あぐりん）<http://www.agrin.jp/>

毒物・劇物の相談は： 保健薬務課（023-630-2333） 最寄りの各保健所

山形県病虫害防除所

本 所 023-644-4241 FAX 023-644-4746
庄内支所 0235-78-3115 FAX 0235-78-3116

病虫害予察情報ファクスサービス

FAX 023-644-4531

ホームページ（URL）<http://www.jpnpn.ne.jp/yamagata/>

予報根拠中の記号 (+): 発生量を多くする要因 (-): 発生量を少なくする要因

普通作物

1. いね

病 害 虫 名	予 報 内 容	
	発 生 時 期	発 生 量
(1) 穂 い も ち	ややおそい	平年並

1) 予報の根拠

ア．出穂期は平年よりややおそいと予想されている。

イ．7月29日現在、葉いもちの発生はやや少ない。(-)

ウ．6月6半旬からの低温、日照不足により稲体が軟弱化し、いもち病に対する抵抗力が弱まっていると考えられる。(+)

エ．8月の天候は、気温が平年並か低く、降水量は平年並か多い可能性が大きいと予報されている。(+)

2) 防除上注意すべき事項

ア．防除は穂孕後期及び穂揃期に必ず行う。

イ．ほ場をよく観察し、葉いもちの病斑が上位葉にみられる場合には、穂揃期7日後にも薬剤を散布する。

ウ．降雨が続く場合は、散布間隔があかないよう雨の合間をみて防除する。

エ．薬剤耐性菌出現防止のため、同一薬剤の連用は避ける。

病 害 虫 名	予 報 内 容
	発 生 量
(2) 紋 枯 病	平年並

1) 予報の根拠

ア．7月29日現在の発生量は内陸でやや多く(+)、庄内で平年並である。

イ．7月20日現在のイネの茎数は平年並である。

ウ．8月の気温は、平年並か低い可能性が大きいと予報されている。(-)

2) 防除上注意すべき事項

ア．出穂期での防除要否の目安は下表のとおりである。

防除要否の目安(調査場所: 水田中央部)

判定時期	品 種	防除の判断基準
出 穂 期	はえぬき	発病株率 15%以上で防除
	ササニシキ	発病株率 10%以上で防除

イ．防除を行う場合は、散布量が少ないと効果が劣るので散布量を厳守し、株元によく付着するように散布する。

ウ．ほ場の畦畔際に多く発生するので、畦畔際にも十分薬剤がかかるように散布する。

病 害 虫 名	予 報 内 容
	発 生 量
(3) 斑点米カメムシ類 (アカヒゲホソミドリカスミカメ・ オトゲシホソカメシ)	やや多い

< 7月2日付け注意報第1号発表 >

1) 予報の根拠

- ア．7月後半の巡回調査の結果、畦畔・農道における斑点米カメムシ類の確認地点率は68%と高い。(+)
- イ．7月後半の巡回調査の結果、水田内のアカヒゲホソミドリカスミカメ確認地点率は平年並であるが、村山、庄内地域で高くなっている。
- ウ．7月5半旬までのアカヒゲホソミドリカスミカメ成虫の予察灯での誘殺数は、農業試験場で平年より多く、庄内支場で平年並となっている。
- エ．8月の天候は、気温が平年並か低く、降水量は平年並か多い可能性が大きいと予報されている。

2) 防除上注意すべき事項

- ア．カメムシ類の発生が多いところや前年斑点米が多かったところでは、穂孕後期の防除を実施する。
- イ．穂揃期および穂揃期7～10日後の2回の薬剤防除を必ず実施する。
- ウ．薬剤は畦畔等カメムシ類の生息場所にも十分かかるように散布する。
- エ．本年の出穂期は平年よりややおそくなることが予想されているため、防除時期に注意する。
- オ．水田周辺を除草する場合は、水田内の薬剤散布前に除草する。
- カ．カメムシ類の生息場所となっている休耕田では薬剤散布を行う。ただし、薬剤散布を実施する場合は、休耕田に登録のある薬剤を使用する。
- キ．アカヒゲホソミドリカスミカメは移動性が高いことから、広域で一斉に防除を行うと効果が高まるので地域ぐるみで実施する。

(4) セジロウンカ

7月29日現在の飛来量は少ない。台風や低気圧の通過等で多飛来することがあるので、今後の発生予察情報に注意する。なお、穂孕後期から出穂期の払い落とし法で、株当たり幼虫数が10頭以上の場合は薬剤を散布する。

(5) コブノメイガ

7月29日現在の飛来量は少ない。台風や低気圧の通過等で多飛来することがあるので、今後の発生予察情報に注意する。

(6) フタオビコヤガ (イネアオムシ)

一部地域でやや発生が目立つが、発生量は全般的に平年並である。発生が多いほ場では、8月2～3半旬頃の若齢幼虫期 (葉先にカスリ状の被害痕がみえ始めた頃) に薬剤を散布する。

2. だいた

(1) 紫斑病

開花期25～35日後に薬剤散布を行う。なお、この時期は子実性害虫 (マメシクイガ、カメムシ類等) との同時防除を兼ねて殺虫殺菌剤を、莢まで薬剤が十分付着するよう丁寧に散布する。

(2) マメシクイガ

連作ほ場や前年発生が多かったほ場では生息密度が高くなる傾向があるので、開花期25日後、およびその10日後に薬剤散布を行う。また薬剤散布を実施する際は、莢まで薬剤が十分付着するよう丁寧に散布する。

病 害 虫 名	予 報 内 容
	発 生 量
(3) ジャガイモヒゲナガアブラムシ	平年並

1) 予報の根拠

ア．一部地域で本種の寄生及び加害による吸汁痕（黄色斑点）のやや多いほ場があるが、発生量は全般に平年並である。

イ．8月の天候は、気温が平年並か低く、降水量は平年並か多い可能性が大きいと予報されている。

2) 防除上注意すべき事項

ア．特に前年発生が多かったほ場や水田転作ほ場では、急激に増加する恐れがあるため定期的にはほ場を見回り、葉裏の寄生状況をよく観察する。本種の寄生密度や吸汁痕の増加がみられる場合には、すみやかに薬剤散布を行う。

イ．薬剤散布を実施する場合は、薬剤が葉裏にも十分量付着するよう丁寧に散布する。

園芸作物

1. りんご

病 害 虫 名	予 報 内 容
	発 生 量
(1) 斑 点 落 葉 病	多い

1) 予報の根拠

ア．7月29日現在の発生量はやや多い。(+)

イ．8月の天候は、気温が平年並か低い、降水量は平年並か多い可能性が大きいと予報されている。(+)

2) 防除上注意すべき事項

ア．8月上・中旬は重点防除時期にあたるので防除を徹底する。

イ．降雨が続く場合は、薬剤の散布間隔を短くするなどの適切な防除に努める。

ウ．不必要な徒長枝は薬液の到達を妨げるので、せん除し適切に処分する。

2. も も

病 害 虫 名	予 報 内 容
	発 生 量
(1) 灰 星 病	平年並

1) 予報の根拠

ア．7月29日現在、実腐れの発生量はやや少ない。(-)

イ．8月の天候は、気温が平年並か低く、降水量は平年並か多い可能性が大きいと予報されている。(+)

2) 防除上注意すべき事項

ア．罹病果は見つけしだい摘み取り適切に処分する。

イ．品種により収穫期が異なるので、薬剤の使用にあたっては農薬適正使用基準（収穫前使用日数）を遵守する。

病 害 虫 名	予 報 内 容
	発 生 量
(2) モモハモグリガ	少ない

1) 予報の根拠

ア．7月29日現在、幼虫による被害は少ない。(-)

イ．8月の天候は、気温が平年並か低く、降水量は平年並か多い可能性が大きいと予報されている。

2) 防除上注意すべき事項

被害がみられる場合は、農薬適正使用基準（収穫前使用日数）を遵守して防除を行う。

3. 西洋なし

病 害 虫 名	予 報 内 容
	感 染 量
(1) 輪 紋 病	やや多い

1) 予報の根拠

8月の降水量は、平年並か多い可能性が大きいと予報されている。(+)

2) 防除上注意すべき事項

8月にも感染するので降雨が続く場合には、薬剤の散布間隔を短くするなどの適切な防除に努める。

4. ぶどう

(1) 晩腐病

発病粒は二次感染防止のため見つけしだい摘み取り適切に処分する。

(2) ペト病

デラウェアでは収穫終了後直ちに、褐斑病およびさび病防除を兼ねて薬剤散布を行う。大粒種では9月以降も発生が増加するので、8月上旬～中旬に防除を行う。

(3) 褐斑病・さび病

例年発生のみられる園地では、収穫終了後直ちにペト病と同時防除を行う。なお、薬液が葉裏に十分付着するよう丁寧に散布する。

5. 果樹共通害虫

対 象 作 物 名	病 害 虫 名	予 報 内 容
		発 生 量
りんご・もも・なし ・かき	(1) カ メ ム シ 類 (クサギカメムシ) (チャバネアオカメムシ)	やや少ない

1) 予報の根拠

ア. 7月後半の巡回調査の結果、カメムシ類による果実被害は前年並である。

イ. 農業試験場の予察灯（60w白熱灯）におけるクサギカメムシの7月5半旬までの総誘殺数は、7頭（平年：15.7頭、前年：32頭）で少ない。(-)

ウ. 県予察ほ場（園芸試験場、農業試験場）における指標植物上の成虫の確認頻度は前年よりもやや少ない。

エ. 8月の気温は、平年並か低い可能性が大きいと予報されている。

2) 防除上注意すべき事項

ア. カメムシ類の飛来は地域および園地により異なるので、園内を十分に見回り、寄生や被害果の有無をよく観察する。なお、加害は収穫期まで長期間にわたるので、園内の見回りを励行し、カメムシ類の飛来の早期発見に努める。

イ. 成虫の飛来が確認される場合には、県病虫害防除基準を参考に各樹種で登録のある殺虫剤を直ちに散布する。

対 象 作 物 名	病 害 虫 名	予 報 内 容
		発 生 量
りんご・もも・なし ・ぶどう・おうとう	(2) ハ ダ ニ 類	平年並

1) 予報の根拠

ア．7月29日現在、一部で発生が目立つほ場もみられるが、平年並の発生量である。

イ．8月の天候は、気温が平年並か低く、降水量は平年並が多い可能性が大きいと予報されている。

2) 防除上注意すべき事項

ア．1葉当りの成幼虫が3頭以上寄生するようになったら直ちに殺ダニ剤を散布する。

イ．薬液は樹冠上部にもかかるよう十分量散布する。

ウ．薬剤抵抗性出現を防止するために、同一成分の薬剤は年1回の使用とする。

エ．不必要な徒長枝は薬液の到達を妨げハダニ類の増殖源となりやすいので、せん除し適切に処分する。

対 象 作 物 名	病 害 虫 名	予 報 内 容
		発 生 量
りんご・な し	(3) ハマキムシ類 (リンゴ ユカモンハキ・リンゴ モンハキ)	少ない

1) 予報の根拠

ア．第1世代幼虫による被害は少ない。(-)

イ．8月の気温は、平年並か低い可能性が大きいと予報されている。

2) 防除上注意すべき事項

ア．防除は若齢幼虫期に行う。

イ．幼虫は樹冠部の新梢先端葉に寄生しやすいので、樹冠上部にも薬液が十分付着するように丁寧に散布する。

対 象 作 物 名	病 害 虫 名	予 報 内 容
		発 生 量
りんご・もも・西洋なし	(4) モモシンクイガ	平年並

1) 予報の根拠

ア．7月後半の巡回調査の結果、被害果の発生量は平年並である。

イ．8月の気温は、平年並か低い可能性が大きいと予報されている。

2) 防除上注意すべき事項

ア．被害果は見つけしだい摘み取り適切に処分する。

イ．8月中の防除を徹底する。なお、収穫期の近い樹種では、薬剤の使用にあたって農薬適正使用基準（収穫前使用日数）を遵守する。

対 象 作 物 名	病 害 虫 名	予 報 内 容
		発 生 量
りんご・もも・西洋なし	(5) ナシヒメシンクイ	平年並

1) 予報の根拠

ア．7月後半の巡回調査の結果、被害果および芯折れの発生量は平年並である。

イ．8月の気温は、平年並か低い可能性が大きいと予報されている。

2) 防除上注意すべき事項

ア．被害果は見つけしだい摘み取り適切に処分する。

イ．例年発生のみられる園地では、8月上旬と下旬に防除を行う。なお、収穫期の近い樹種では、薬剤の使用にあたって農薬適正使用基準（収穫前使用日数）を遵守する。

(6) ウメシロカイガラムシ (もも・おうとう)

発生が多い園地では、8月上旬中旬に防除を行う。なお、ももの収穫期にあたり防除ができなかった場合は、8月下旬までに防除を行う。

6 . 夏秋きゅうり

病 害 虫 名	予 報 内 容
	発 生 量
(1) ベ と 病	やや多い

1) 予報の根拠

ア . 7月29日現在の発生量はやや多い。(+)

イ . 8月の天候は、気温が平年並か低く、降水量は平年並か多い可能性が大きいと予報されている。(+)

2) 防除上注意すべき事項

ア . 発生をみたら直ちに防除する。発病葉は摘み取り適切に処分する。

イ . 通風をよくするため、過繁茂にならないよう適切な肥培管理を行う。

ウ . 転換畑や水はけの悪いほ場では排水をよくする。

病 害 虫 名	予 報 内 容
	発 生 量
(2) う ど ん こ 病	平年並

1) 予報の根拠

ア . 7月29日現在の発生量は平年並である。

イ . 8月の天候は、気温が平年並か低く、降水量は平年並か多い可能性が大きいと予報されている。

2) 防除上注意すべき事項

ア . 早期発見に努め、発生初期の防除を徹底する。発病葉は摘み取り適切に処分する。

イ . 薬剤耐性菌出現防止のため、同一薬剤、同一系統薬剤の連用や多数回散布はしない。

(3) 黒星病

ア . 低温多雨の条件下で発生が多くなるので、発生が見られた場合は被害部分を直ちに摘み取り、適切に処分する。

イ . 薬剤による防除を徹底するとともに、散布の際はつる先や幼果にも十分かかるよう散布する。

(4) 斑点細菌病

ア . 発病葉は摘み取り適切に処分する。

イ . 通風をよくするため、過繁茂にならないよう適切な肥培管理を行う。なお、曇雨天日の摘葉、摘心をさける。

ウ . 転換畑や水はけの悪いほ場では排水をよくする。

7 . 野菜・花き共通害虫

対 象 作 物 名	病 害 虫 名	予 報 内 容
		発 生 量
夏秋きゅうり・秋冬はくさい・きく	(1) アブラムシ類	平年並

1) 予報の根拠

ア . 7月29日現在の発生量は平年並である。

イ . 8月の天候は、気温が平年並か低く、降水量は平年並か多い可能性が大きいと予報されている。

2) 防除上注意すべき事項

- ア．秋冬はくさいを育苗する際、寒冷しゃ等を利用して有翅虫の飛来を防止する。
 イ．早期発見に努め、薬剤は葉裏にも十分量付着するよう丁寧に散布する。

対 象 作 物 名	病 害 虫 名	予 報 内 容
		発 生 量
夏秋きゅうり・きく	(2) ハダニ類	やや少ない

1) 予報の根拠

- ア．7月29日現在の発生量はやや少ない。(-)
 イ．8月の天候は、気温が平年並か低く、降水量は平年並か多い可能性が大きいと予報されている。

2) 防除上注意すべき事項

- ア．早期発見に努め、密度が高くなる前に防除を徹底する。なお、薬剤は葉裏にも十分量付着するように散布する。
 イ．薬剤抵抗性出現を防止するため、同一成分の薬剤は連用しない。

対 象 作 物 名	病 害 虫 名	予 報 内 容
		発 生 量
秋冬ねぎ・秋冬はくさい・きく	(3) ヨトウガ	やや多い

1) 予報の根拠

- ア．7月5半旬までのフェロモントラップによる誘殺数は、前年よりやや多い。
 イ．7月29日現在の第1世代幼虫による被害は前年よりやや多い。(+)
 ウ．8月の天候は、気温が平年並か低く、降水量は平年並か多い可能性が大きいと予報されている。

2) 防除上注意すべき事項

- ア．秋冬はくさいを育苗する際、寒冷しゃ等を利用して成虫の飛来を防止する。
 イ．ほ場をよく見回り、被害初期(かすり状の食害)に薬剤を散布する。なお、薬剤の散布にあたっては、3齢以降の幼虫には効果が著しく低下するので、若齢幼虫時に散布する。

東北地方 1 か月予報

予報期間 7月26日から8月25日
平成15年7月25日 仙台管区气象台発表より

< 予想される向こう1か月の天候 >

向こう1か月の可能性の大きな天候は以下のとおりです。

低気圧や前線の影響で天気がぐずつき、平年に比べて曇りや雨の日が多い見込みですが、太平洋高気圧に覆われ晴れて暑い日もあるでしょう。

向こう1か月の気温は平年並か低い、降水量は平年並か多い、日照時間は平年並か少ないでしょう。

週別の気温は、1週目は低い、2週目は平年並か低い、3～4週目は平年並の見込みです。

< 確率 >

期 間	要 素	地 域	低・少	平年並	高・多
1 か月	気 温	東北地方	4 0	4 0	2 0
1 か月	降水量	東北地方日本海側	2 0	4 0	4 0
1 か月	日照時間	東北地方日本海側	4 0	4 0	2 0
1 週目	気 温	東北地方	5 0	4 0	1 0
2 週目	気 温	東北地方	4 0	4 0	2 0
3 ～ 4 週目	気 温	東北地方	3 0	5 0	2 0

< 予報の対象期間 >

1 か月 : 7月26日(土)～ 8月25日(月)

1 週目 : 7月26日(土)～ 8月 1日(金)

2 週目 : 8月 2日(土)～ 8月 8日(金)

3 ～ 4 週目 : 8月 9日(土)～ 8月22日(金)

「平成 15 年山形県農作物病害虫防除基準」の訂正点

1. 記載内容の点検により判明した訂正すべき内容

ページ	作物名	対象病害虫（項目）	薬剤名	現記載	正しい記載
81	きゅうり (夏秋きゅうり)	黒星病 (適正使用基準一覧表)	ポリオキシシン AL 水和剤	使用回数 5 回以内	使用回数 3 回以内
94	すいか	つる割病	ベンレート T 水和剤 20	200 倍液に 12 時間浸漬	削除
103	スイートコーン	アワヨトウ	ディプテレックス粉剤	10a 当たり 4 ~ 5 Kg 散布	10a 当たり 4 Kg 散布
104	えだまめ	アブラムシ	モスピラン水溶剤	2 0 0 0 倍液散布	4 0 0 0 倍液散布
125	だいこん	キスジノミハムシ	ダイシストン粒剤、TD 粒剤	1 g ずつ植穴処理	10a 当たり 3 ~ 4 Kg 植穴処理
131	ばれいしょ	アブラムシ類 (適正使用基準一覧表)	モスピラン水溶剤	使用回数 4 回以内	使用回数 3 回以内
133	みつば	べと病	ダコニール 1000	根株養成期	根株養成期(但し収穫 7 5 日前まで)
136	うど	アブラムシ類、センノカミキリ	スミチオン乳剤	根株養成期	根株養成期(但し収穫 1 5 0 日前まで)
84, 144	きゅうり (夏秋きゅうり、ハウス)	アブラムシ	オレート液剤	6 0 倍液散布	1 0 0 倍液散布
154, 156	いちご(ハウス)	うどんこ病	モレスタン水和剤	2000 倍液散布	3000 倍液散布
156	いちご(ハウス)	灰色かび病	ポリオキシシン AL 水和剤	500 倍液散布	1000 倍液散布
162	きゅうり (ハウス)	うどんこ病、灰色かび病、黒星病、べと病 (くん煙防除法)	ダコニールくん煙剤	使用量 100m3 当たり 40 g	使用量 100m3 当たり 30 g
163	なす(ハウス)	ハダニ、アブラムシ類 (くん煙防除法)	テルスターくん煙剤	使用回数 4 回以内	使用回数 3 回以内

2. 農薬登録の失効および変更により使用基準が厳しくなり、記載内容に変更が生じた農薬

	変更 年月日	農薬の名称	作物名	使用時期	使用回数	変更内容	ページ
農薬登録失効	03/05/10	フジワンアプロード粉剤 DL	水稻			削除	62
農薬登録失効	03/05/25	プラントバックス水和剤 5 0	きく、やなぎ			削除	169, 171, 181
登録内容変更	03/06/25	ノーモルト乳剤	日本なし	収穫前日まで	2回以内	農薬適正使用基準を変更	232